

氏名	俵 功
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 2447号
学位授与の日付	平成15年3月25日
学位授与の要件	医学研究科病理系生体防御医学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Sequential Involvement of Two Distinct CD4 ⁺ Regulatory T Cells during the Course of Transplantable Tumor Growth and Protection from 3-Methylcholanthrene-induced Tumorigenesis by CD25-depletion (2種類の異なるCD4T細胞による腫瘍増殖の調節とCD25陽性T細胞除去による3-メチルコラントレン腫瘍誘発抑制)
論文審査委員	教授 谷本 光音 教授 許 南浩 教授 白鳥 康史

学位論文内容の要旨

最近、抗腫瘍免疫応答の調節性 CD4⁺T 細胞による抑制が明らかにされた。本研究では、2種類の表現型の異なった調節性 T 細胞の腫瘍増殖への関与について検討した。BALB/c マウスに、CD25 抗体を投与した後に同系腫瘍 RLmale1 あるいは MethA を接種したところ腫瘍は拒絶されたが、CD4 抗体の投与では拒絶されなかった。一方、マウスに同じ腫瘍を接種した後6日目に CD4 抗体を投与したところ腫瘍は拒絶されたが、CD25 抗体の投与では拒絶されなかった。腫瘍増殖の初期には CD4⁺CD25⁺T 細胞が抗腫瘍免疫応答を抑制し、中期以降には、CD4⁺CD25⁻T 細胞が抑制していると考えられる。また、これらの調節性 CD4⁺T 細胞は細胞傷害性 T 細胞 (CTL) の誘導を抑制していることが明らかとなった。さらに化学発癌においては、3-メチルコラントレン接種後においても CD25 陽性 T 細胞の除去が発癌の遅延と生存の延長をもたらすことが明らかとなった。

論文審査結果の要旨

本研究は、マウスの同系腫瘍に対する抗腫瘍作用に2通りに働く細胞群があること、このうち抗 CD4 抗体、抗 CD25 抗体各々による処理の時期によって抗腫瘍作用の増加が認められ、効果の発現には抗体処理の時期が大きく影響することを見出している。また腫瘍発生を促進する 3-MC 発癌過程においても、こうした抗体処理により腫瘍発生の遅延と生存の延長を認めることから、腫瘍に対する抑制性の細胞免疫機構が初期発生の段階から働いていることが示唆され、腫瘍免疫を考える上で勝ちある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。